

すっかんぽ

☆ 研究室だより No. 10

1993年 2月号

動物たちの

フィールドサイン

～ 真鍋先生大活躍の巻～



ニホンジカ
のふん

1993年 2月7日(日) 足尾山地のシカ・カモシカ観察会が 栃木県立博物館の主催で行われた。我々 佐高グループのメンバーは、真鍋夫妻、青柳夫妻と佐高OBで、現在 大田原高校で生物を教えている吉田氏の計5名である。

バスの中で 野生動物を研究している 宇都宮大学の小金沢先生が、「シカは、ここ数年 ふえてきていますが、カモシカは、極端にへっています。今日、カモシカを見れたら、大変ラッキーでしょう。」という話をしており、熱心にメモをとる人もいた。

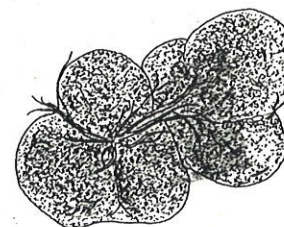
一方、私たちは、そうしたアカデミックな奮闘気とよろに、コーヒーをついだり、お菓子をつめた箱を回したりで気分はすでにハイキングなのだ。はたして、こんな私たちにも、カモシカを見るチャンスは、めぐってくるのであろうか。しかし、7時を開けてみると、佐高グループ(特に 真鍋氏)は大活躍! 同行していた東京新聞の記者とも仲よくなり、次の日の紙面も飾ることとなったのである。

ところで野生動物を観察する場合、直接、姿を見ることができなくても、動物たちの残した、ふん、足跡、食物のかじりあとなどでも、その生活を知らることができる。これらを フィールドサインと呼んでいる。真鍋氏は、フィールドサインをみつけては、小金沢先生に、「よくみつけたねー」とほめられ、株は急上昇していたかにみえたのである。

フィールドサイン No. 1

…… ニホンジカ、ニホンザルのふん

- ・ニホンジカとカモシカのふんは、一個一個では、区別できないが、一カ所にためふんをするのが、カモシカ。あたりに、ぼらまいているのが、ニホンジカ。みつけたのは、ニホンジカのみ。
 - ・ニホンジカのふんは、だれでもみつけられたが、ニホンザルのふんは 真鍋氏 only。三角形をしたものがつなげてでてくる。草食のせいかな。
- 全然臭くない。しいて言えば
枯草のようなにおいだ

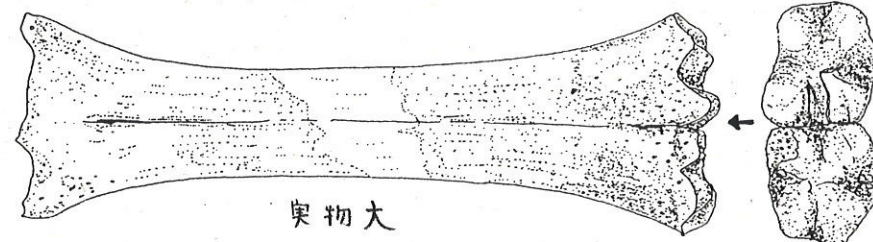


ニホンザルのふん
(実物大)

フィールドサイン No. 2

…… カモシカの骨 (大腿骨という 肢の骨)

- ・これは、かなりポイントが高い。(ス本もみつけた)
- ・小金沢先生の話によると、雪の多い年には、餓死するシカ、カモシカがおり、全身の骨がみつかることもあるようだ。



実物大

矢印の方向が
みた図

ふんや食べ跡を見つけ大喜び (1993. 2. 8 東京新聞より一部抜粋)

県立博物館が主催。この日は穏やかな天候となり絶好の観察日和。県内外から約五十人が参加。家族連れなどが双眼鏡をのぞき、うつすらと雪化粧した岩肌にシカを見つけると「いた、いた」「こっちを見てるよ」と大喜び。教師仲間を誘って参加した佐野高校の真鍋健教諭(三宅)は「授業に役立てられればと思い参加しました。今度は生徒を連れてきてみたいですね」とシカのふんや食べ跡まで熱心に観察していた。

説明役で足尾など県内の野生動物の研究をしている宇都宮大学の小金沢正昭講師(野生動物保護管理)は「足尾地区に定住しているシカのグループに、夏の間を戦場ヶ原で過ごし、冬に足尾に移動してくるグループが加わり、この時期の足尾地区のシカは、かなりの数になる」「また冬は木の葉が落ち、雪も降ることのでシカが発見しやすくなる。数も多く、冬枯れで見通しの良い今が一番観察に向いている」という。

フィールドサイン No.3 食物のかじり跡、角とぎの跡

・ニホンジカも カモシカも、ニホンサルも 木の皮などを食べているが、食べ方で 区別 することができる。ニホンサルは 高い木の 上の方の枝を好み、枝に対し 直角に 皮をかじって食べている。一方、ニホンジカや カモシカは、木の 低い部分の皮を、きれいに、はいて 食べるのだ。

・小金沢先生の説明で、サルにかじられた木々も 遠くから みんなで みていると、突然、後ろの方で 真鍋先生が また 変わった物を みつけた ようだ、た。小金沢先生「あれ、もしかするとこれは、^{ツノ}角とぎの跡 かもしれないなあ」^{ツノ}角とぎというのは、カモシカが、角を 鋭くしたり、自分の目じるしを残すために、樹皮を こす、たりした 跡 なのである。 数少ない。

カモシカの 角とぎ 跡だとすると、これは、大ヒットである。

回りの 人達も、「なかなか いいものを みつけてくれるね。」とでも

いったげに、何度も うなづいていた。 真鍋氏の 株は、

この時、バブルの 絶頂に いた といっても 過言

では、なかった。



双眼鏡

小金沢先生

ニホンジカや
カモシカの
かじり跡
(皮をきれいに
はいて 食べている)



歯の跡

ニホンジカ
のかじり跡
(実物大)

フィールドサイン No.4 ニホンジカの毛

実物

さすがはプロ、と言わざるを得ないが、

小金沢先生は、雪の上に 落ちていた、シカの毛を 発見 していました。シカの毛は、曲げると パキッ

と折れて しまうが、カモシカの毛は、人の毛に 近くて、しなやかである、ということだ。



香ばい
におい
がする

フィールドサイン No.5 正体不明のふん

・ちょうど 昼食 が 終わる ころだ、た。真鍋氏は、右の 図の ような 正体不明のふんを 手に のせ、

小金沢先生に、「これは、何のふんですか」と

質問した。すると、先生は、あきれた ような 顔で

「...それは、かりん糖 でしょう」といって 食べて しまった。

このことも 私たちは、バブルが はじけた “かりん糖 事件” と呼ぶ ことに した。

《カモシカ ついに 発見》

・ニホンジカは、たくさん 見る ことが できたが、カモシカは、さっぱり、

ところが、どたん 場になて、佐高グループの 吉田氏 (大田原高校)

の、逆転サヨナラ ホームラン で、カモシカが 発見された。

川をはさんだ 対岸の山に うずくま ている ところも、双眼鏡で

見つけたのである。小金沢先生も みんなも 大喜びし、吉田

氏は、ヒーロー となり、拍手と あびていた。また 空には、北

海道にでも 行かないと、なかなか 見る ことのできない、オオワシも 飛

んでいた。充実した 一日 だったが、今日 一日を 盛り上げて

くれたのは、真鍋氏で

あなたと 私は

思っている。



これが カモシカ
(肉眼だと こんな 程度の 大きさ)